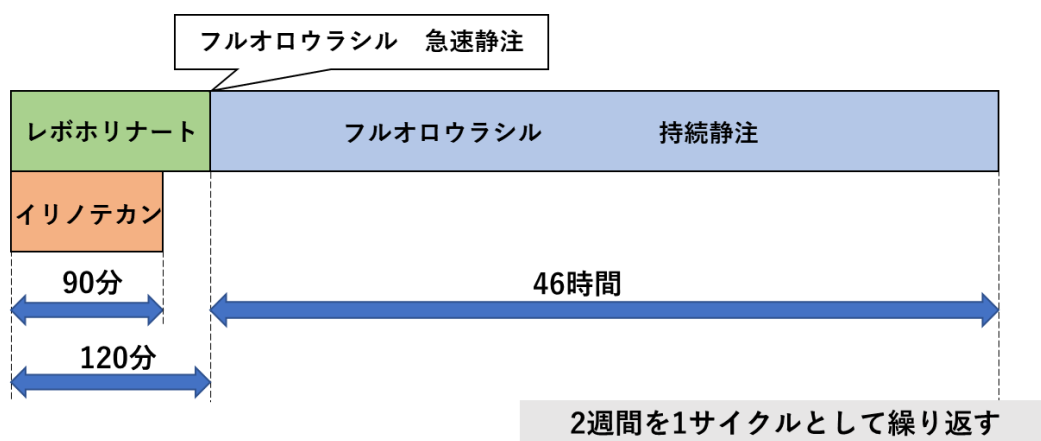


FOLFIRI 療法

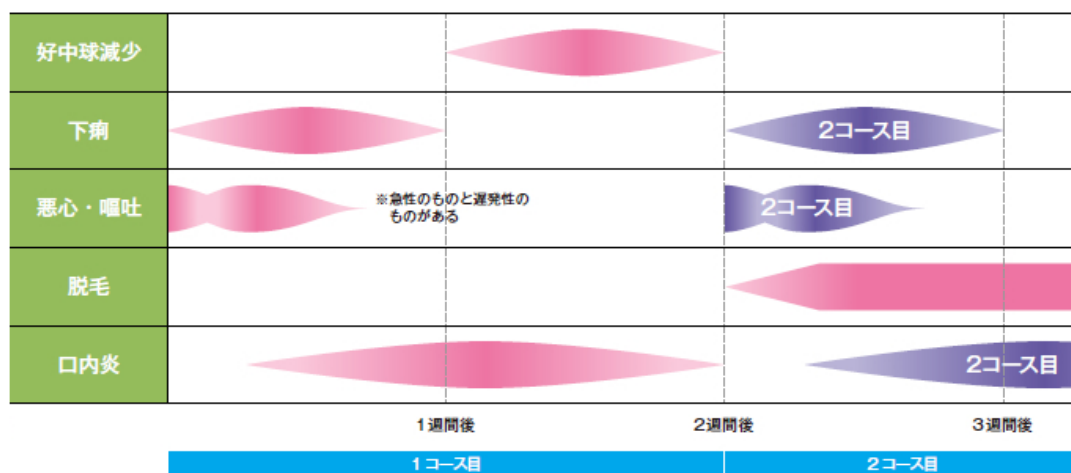
(イリノテカン+フルオロウラシル+レボホリナート)

FOLFIRI 療法はイリノテカン、フルオロウラシル、レボホリナートを組み合わせた治療法で、治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸がんに対する標準的治療として広く用いられています。更に、FOLFIRI 療法に分子標的薬を組み合わせる治療も行われています。通常、2 日間の点滴の治療を 2 週間ごとに繰り返しますが、実際には患者さんの状態や副作用などによって、投与間隔をあげる等の変更が行われることがあります。

【投与方法】



【主な副作用症状と好発時期】



※イリノテカンによる下痢は、重篤になることがあるので注意が必要です。またイリノテカンの代謝酵素である、UGT1A1 の遺伝子多型により重篤な好中球減少を招くことがあります。更に、CYP3A4 より代謝されるため、CYP3A4 に影響する薬剤やサプリメントにも注意が必要です。

《服薬指導ポイント》

骨髄抑制

- 好中球減少…多くの場合点滴投与 1-2 週間後に出現しやすく、その後 1 週間程度で回復します。手洗い・うがいをこまめに行い感染対策に留意頂くよう説明して下さい。
- 赤血球減少…貧血症状を感じる場合があります。無理をせず休息をとること、バランスの良い食事を心掛けるよう説明して下さい。
- 血小板減少…出血しやすく、出血が止まりにくくなります。けがや転倒には注意するよう説明して下さい。

消化器症状

- 下痢…投与直後に出現する早発型と、24 時間以降に発現する遅発型があります。早発型には抗コリン薬、遅発型にはロペラミド等が使用されます。下痢症状により脱水にならないよう、水分（スポーツドリンクなど）の摂取について説明して下さい。下痢時には食物繊維や脂肪分の多い食べ物、刺激物は避けるよう指導して下さい。
- 悪心・食欲不振…高い頻度で悪心が出現します（がん診療ガイドラインにおいて催吐リスクは中等度）。嘔吐が遷延しており、食事摂取が困難な場合は、医療機関に連絡、または、受診するよう指導して下さい。

その他

- 脱毛…毛髪や体毛が抜けることがあります。確立した予防法はありませんが、低刺激性のシャンプーを使用するなどの生活面での工夫、アピアランスケアについて説明をして下さい。
- 口内炎…含嗽薬を用いた含嗽や、口内炎治療薬にて対策をすることもあります。口腔内を清潔に保つよう、口腔ケアについて説明して下さい。
- 色素沈着…主に顔面、爪、手、足など四肢末端に、色素沈着がみられることがあります。日焼けにより増悪するため、直射日光を避けたり、日焼け止めクリームを使用したりするなどの対策について説明を行ってください。抗がん剤の中止により徐々に症状は改善されていきます。
- 間質性肺炎…息苦しさ、咳嗽症状がありましたら受診を勧めて下さい。

その他、対応が必要な副作用と感じた場合は患者さんに受診を勧めて下さい。